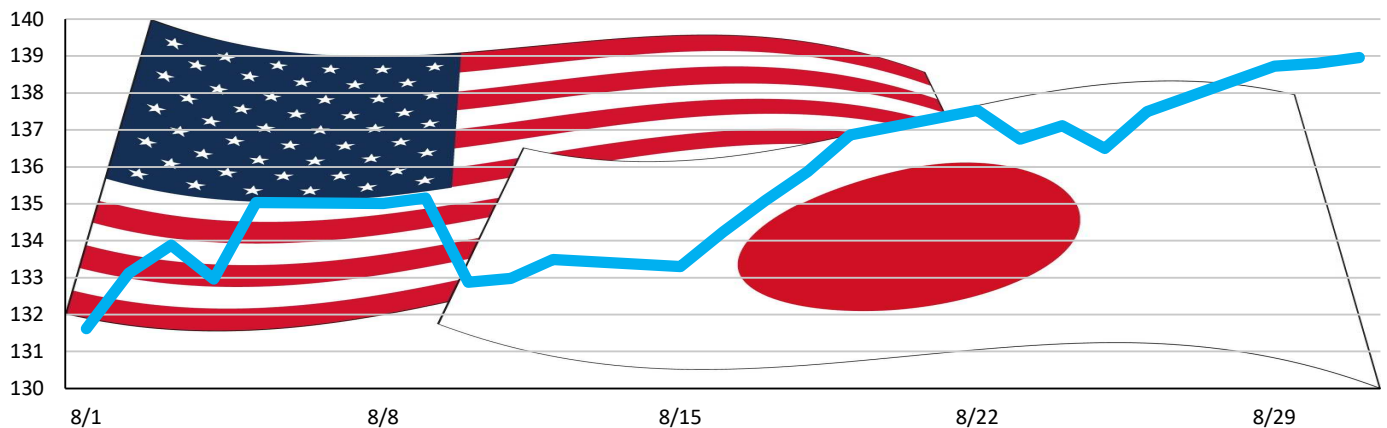


MARKET REVIEW

先月の振り返り：8月のドル円相場は130円半ば～139円前半で推移。ペロシ米下院議長の台湾訪問をきっかけにリスク回避の動きが見られたが、米当局者によるタカ派発言や良好な米雇用統計の結果などを受けドルが買われる展開。しかし米消費者物価指数が予想外に弱い数値だったことでドル売りが加速しドル円は131円台半ばまで急落したが、小売売上高などの米経済指標発表で良好な数値が相次ぎ、9月FOMCで大幅利上げの可能性が高まり一転してドル買いが進んだ。注目されたジャクソンホール会議においてパウエルFRB議長が利上げ継続姿勢を示したことや、日銀の黒田総裁が金融緩和政策を維持する必要がある、との見解を示したことでさらに円安ドル高が進みドル円は139円台に達した。

(円)

米ドル円為替レート(終値ベース)



EXTRA VISION

今後の展開：9月に入りドル円は24年ぶりの140円台に突入。利上げを継続している米国に加え、ユーロ圏やイギリスなどの国々も利上げに踏み切っており、金融緩和政策を維持している日本との金利差拡大を見込んだ円売りという大きな流れは変わらないだろう。ただ景気先行き懸念の高まりで株式市場が下落している状況で、今後の米FOMCにおいてどこまで利上げを継続していくのか、マーケットの関心事となっている。9月に行われる米FOMCには特に注目しておきたい。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
9 / 22 (木)	3 : 00	US	米連邦公開市場委員会 (FOMC)	☆☆☆☆☆
9 / 22 (木)	** : **	JP	日銀金融政策決定会合	☆☆☆☆
9 / 27 (火)	23 : 00	US	新築住宅販売件数	☆☆☆☆
9 / 29 (木)	21 : 30	US	米GDP確定値	☆☆☆☆
10 / 7 (金)	21 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
10 / 13 (木)	21 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆
10 / 14 (金)	21 : 30	US	小売売上高	☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなされるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。